

生成 A I 研究校実践事例

学校名	都立両国高等学校（全日制）		
学年	第 1 学年	教科等	情報科
単元名	情報社会の問題解決(1 時間)		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生成 A I とは何か ・生成 A I の使い方と注意点 ・生成 A I を使った実習 		

本時の目標 (1/1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・生成 A I の種類、特徴やそのリスクについて理解する。 ・生成 A I の使い方を理解する。 	
	●主な学習活動・生徒の活用	□生成 A I の活用
本時の流れ	<p>●生成 A I を体験する（5 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成 A I を体験する ・何を聞いたなら、どのような返答をするか共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・こう聞くと、このような返答があるという例示を行う。 例：自律自修とは ・ハルシネーションを自ら起こさせ、どういう分野が苦手か、どういう問いかけがダメかを体験する。 ・箇条書きと # を使ったプロンプトを例示する 例：# 命令書:あなたはプロの編集者です。
	<p>●生成 A I とは何か（25 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成 A I とは何か理解する ・ハルシネーションとは何か理解する <p>実習 1 ハルシネーションを起こすような問いかけをせよ 全員で内容を共有する</p> <p>実習 2 なぜハルシネーションが起こるのか考えよ 生成 A I のリスクと仕組みを理解する</p>	
	<p>●プロンプトを理解する（20 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなプロンプトだと望む答えが返ってくるか理解する <p>実習 3 両国高校学校案内のキャッチコピーを考えよう 望む答えが返ってくるプロンプトの練習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰に」「何を」「どのように」などを明示しないとよい答えが返ってこないテーマを示すことにより生成 A I のよりより使い方を理解するとともに、どのような場合に利用できるかの理解につなげる。 ・プロンプトおよび成果を共有し、相互評価する 	

	使用したプロンプト例	出力例
1	<p>自律自修とは</p> <p>(追加プロンプト) 自律自修のいいところを 100 文字程度で教えてください</p> <p>(追加プロンプト) 自律自修のいいところを 100 文字程度で小学生にもわかる言葉で教えてください</p>	<p>自律自修（じりつじしゅう）は、自己学習や自己修正を通じて、自分自身を成長させる能力や習慣のことを指します。（以下略）</p> <p>自律自修のいいところ：自己成長の自由度が高まり、自己学習や自己改善の習慣を身につけることで、自分の目標に向かって主体的に進むことができる。</p> <p>自律自修のいいところ：自分で勉強したり、自分で成長できるから、好きなことを学ぶことができるし、目標に向かって自分で頑張れるよ！</p>
2	<p># 命令書: あなたはプロの編集者です。以下の制約条件と入力文をもとに最高の要約を出力してください。</p> <p># 制約条件: ・文字数は 300 文字程度。 ・小学生にもわかりやすく。 ・重要なキーワードを取り残さない。 ・文章を簡潔に。</p> <p>#入力文: むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。（以下童話「桃太郎」文章）そして三人は、宝物のおかげでしあわせにくらしましたとき。</p>	<p>むかしむかし、おじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、大きな桃が流れてきました。中から元気な赤ちゃんが現れ、おじいさんとおばあさんは喜びました。赤ちゃんは桃太郎と名付けられ、成長して強い男の子になりました。ある日、桃太郎は鬼ヶ島へ行き、イヌやサル、キジと仲間になりました。鬼ヶ島では、仲間と力を合わせて鬼を退治し、宝物を取り戻しました。おじいさんとおばあさんは喜び、宝物のおかげで幸せに暮らしました。</p>

本時において生成 AI を活用する上での配慮事項・ポイント	
1	生成 AI のリスク（ハルシネーション・ブラックボックス問題）を理解させ、万能ではないことを理解させる
2	望む答えを出すためには明確なプロンプトが必要であることを理解させる